

●新社会システム●

●第10回

日時：11月13日(木) 10:00~12:00

場所：北海道大学工学部

題目：コンピュータの新しい使い方

一人とコンピュータの知的共同作業一

講師：栗原正仁(北海道大学工学部)

人工知能技術の進歩により、コンピュータもある程度の知的作業ができるようになってきた。本講演では特に項書き換えシステムによる問題解決の手法を、講師らの開発したシステム Thinker を用いた2つの事例に即して説明していただいた。

■会員近況・声■

福馬敏子 法政大学 工学部経営工学科

このところSE用適性検査について興味をもっております。ここ数年来入社試験を受けてきた学生からの情報によりますと、おおかたの会社で試験といえば適性検査が行なわれ、専門については面接時にわずかに質問を受ける程度だということです。大学側にとっては、いささか佻しくも感じられます。

最近の経営工学科の就職状況を調べてみると、情報処理産業(生産会社、銀行などの情報処理部門も含む)からの、いわゆるSEの求人は増え続けており、この傾向は文科系学部にもおよびつつあります。そのような折り、某会社から、ある先生がSE用適性検査の相談を受けました。「適性の有無で就職後の仕事率に差ができるが、一般に使用されている検査ではよくわからない。なかには検査集なるものを所持して訓練を積んでくるものがある。」のだそうです。さっそく協力することになり、来年度の実施に向けて問題作成のための調査をはじめました。4年生を被検者にして、SEに不可欠な因子の分析を試みました。これがなかなか、あらかじめ予想した仮説にあてはまらなくて苦慮しております。

ともあれ、問題のあるモデルとしてとらえたり、その解決の法則や手法を発見することも、SEには必要であ

●日本のシステム科学●

●第21回

日時：12月6日(土) 14:00~17:00 出席者：6名

場所：八丁堀 東京都勤労福祉会館 第3洋室

テーマ：MERGER & AQUISITION (企業買収)

自由主義経済圏の先進国では企業の合併・獲得(企業買収)が行なわれることがある。しかしそれぞれのお国柄や文化の相異により、友好的買収になるか、非友好的な買収(いわゆる乗っ取り)が多いかの相異が存在する。そこで、日本とアメリカにおける事例について検討してみることにした。それがこの研究発表となった次第であります。日本はやはり日本的なようであります。

りましょう。とすると、いまひとつ適性検査だけではなく、ORの問題も出題しては? ……そうすれば、大学にもっと期待していただいても良いのだけれどなんて、4年生ともども思ったりもしているのです。

浅野美代子 有限会社エー・シー・エス

長年勤めた銀行を退職して、信州に住んで早くも2年半過ぎました。だんだん、こちらの生活に慣れてきて、ときおり肩と肩がすれ合うような東京へゆくと、広い犀川の河川敷がなつかしくなったり、人に会うのがつらくなったりしてしまい、これではいけない、ということで今年の3月から仕事をはじめました。

科学計算プログラム開発を中心に、OR、AI、VAN、事務処理プログラムなどの開発を行っております。誰にでも、わかりやすい使いやすいプログラムの開発をめざし、色々な方々とともに取り組んでゆきたいと願っています。

OR学会は、会員らしい活動もまったくしておりませんが、創立後初めての仕事がAHP(階層分析法)のプログラム作成でしたので、ORと関係なくもなさそうです。

(本社住所 長野市若里1136-22 カンカン5番館

電話 0262(28)0019 FAX0262(28)0019)

会合記録

庶務幹事会 11月4日(火)(7)

編集委員会(OR誌)11月5日(水)(8)

理事会 11月10日(月)(19)

研究小委員会 11月17日(月)(5)

表彰委員会 11月28日(金)(6)

第4回理事会議題

61-11-10

1. 第3回理事会議事録の件

2. 支部長会議開催報告の件

3. 入退会の件
4. 本部事務局職員人事の件
5. 会員増強の件
6. IFORS' 87の件
7. IFORS Plans & Programmes Comm. の件
8. IFIP Workshop Programme Comm. の件
9. 秋季研究発表会・シンポジウム開催報告の件
10. 春季研究発表会・シンポジウムの件
11. 定例講演会の報告・予定
12. 科研費の件
13. 国際数学会会議共催（または後援）依頼の件
14. OR誌レフェリー制度の件
15. JORSJの新編集方針
16. 昭和61年度上半期収支計算書
17. 昭和62年度の事業計画・予算作成の基本方針
18. その他
 - ・国際会議のための募金の件
 - ・OR誌特集号広告の件

入 退 会

(61.9.3~61.11.10)

- 61年度入会（正会員）
- | | |
|-------|------------|
| 相山 長和 | 東京都立商科短期大学 |
| 坪 雅博 | 早稲田大学 |
| 大賀 幸治 | ㈱日立製作所 |
| 川島 秀樹 | 日本タイムシェア㈱ |
| 小島 崇弘 | 専修大学 |
| 塩野谷 明 | 長岡技術科学大学 |
| 高山 貞子 | 富士ファコム制御㈱ |
| 谷川 明夫 | 豊田工業高等専門学校 |
| 内藤 郁夫 | 日本電信電話㈱ |
| 凧 孝 | ㈱東洋情報システム |
| 西垣 重臣 | ㈱間組 |
| 水野 正敏 | 日経マグローヒル社 |
| 山本 太一 | 三重大学 |
| 吉野 秀明 | 日本電信電話㈱ |
- （学生会員）
- | | |
|-------|--------|
| 赤壁 弘康 | 大阪府立大学 |
| 穴太 克則 | 大阪大学 |
| 軽部 光男 | 筑波大学 |
| 榊原 隆太 | 早稲田大学 |
| 菅沼 陽史 | 早稲田大学 |
| 鈴木さとみ | 早稲田大学 |

- | | |
|-------|--------|
| 多井 剛 | 神戸商科大学 |
| 高橋 寿夫 | 早稲田大学 |
| 玉置 久 | 京都大学 |
| 樽本 充 | 近畿大学 |
| 矢崎 義行 | 早稲田大学 |
| 矢島 俊弥 | 慶応義塾大学 |
- 退会（賛助会員）
- ㈱間組
- 61年度末退会（正会員）
- | | |
|-------|-------|
| 池田 三郎 | 木村 修 |
| 神野 健二 | 梁川 靖洋 |
- 移動
- | | |
|-------|--------------------|
| 中山 明 | 筑波大学→
小樽商科大学 |
| 日岐 浩和 | 工学院大学→
㈱三協精機製作所 |
- 62年度入会（正会員）
- | | |
|-------|-----------------|
| 北野 亨 | ㈱ユニバース |
| 中村寿太郎 | ㈱日興リサーチセンタ
ー |
| 福留 正邦 | 米国三菱化成社 |
- 移動
- | | |
|-------|-------------------|
| 片岡 正昭 | 筑波大学→
米国ミンガン大学 |
|-------|-------------------|

編集後記▶新しい年をむかえて会員のみなさまも1年の計をいろいろと練っておられると思いますが、編集委員会も、今年もより一層面白くてためになる記事を会員のみなさんにお届けできるように努力していきたいと意を新たにしております。しかし、なんといってもそれを支える会員の方々の質の高いORの研究と啓蒙活動を通じたご協力が不可欠であります▶さて、新年号は“線形計画法の最近の発展”の特集号といたします。軽い随筆か

ら、数学理論まで、最近の発展が一望できるものと思います。LPの内容が、実際に問題解決に役立つ方法としての側面と、理論それ自体を研究対象としている側面にはっきり分離ははじめていることに気づかれることと思います。これは、LPに限ったことではありませんが、OR全体の問題として今年の課題としていきたいと思えます。(K)

オペレーションズ・リサーチ

昭和62年1月号 第32巻（新シリーズ第12巻）1号 通巻313号
 代表者 吉山 博 吉
 発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
 (電話 03-815-3351~2) 〒113
 編集人 柳井 浩
 発売所 株式会社 日科技連出版社
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

- 本誌のご注文は直接 日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 850円（郵送料含）年間予約購読料 9600円（郵送料含）
- 本誌への広告お申し込みは明報社（571-2548）、日経弘報社（563-2241）へ